



支援学校生に実習の場 体調など伝えるボード

障害者多く働く会社 どんな工夫？



工場で作業をするオムロン太陽の従業員
11月6日、別府市内蔵 撮影・首藤洋平



9月は障害者雇用支援月間。民間企業が雇用すべき障害者の割合「法定雇用率」は本年度、2・5%に引き上げられた。雇用義務の対象となる企業も増え、県内は千社ほどになった。障害者が多く働いている会社はどんな取り組みや工夫をしているのか。(松尾祐哉)

国は障害者雇用促進法に基づき、法定雇用率を段階的に引き上げている。昨年度までは2.3%。現在の2.5%は2026年6月まで適用する。従業員40人以上の事業所が対象（昨年度までは43.5人以上）。障害の種類や程度によって勤務できる時間が異なるため、1人を雇った場合でも▽短時間労働者は0.5人分▽重度身体、知的障害者は2人分などと計算する。

小さな配慮の意識
県内で23店舗を構えるトキハインダストリー（大分市明野東。大分市や佐伯市など5市町のスーパーで、身体、知的、精神の障害がある20〜70代の男女29人が働いている。職場は鮮魚や精肉などさまざまな部

個々の特性を見極めて



自分の体調やメンタルの状態を周囲に伝える「コンディションボード」＝別府市内蔵のオムロン太陽

人事課は「スーパーの業務は繰り返しの作業が多いため、障害のある人も活躍しやすい。雇用の場を広げるためにも、将来的には当事者をサポートできる従業員を小規模店にも配置し、全店で実習や雇用の受け入れができる体制づくりを目指す」と説明する。

門。3月末時点の障害者雇用率は3・08%に上る。同社は約20年前から、特別支援学校の生徒に実習の場を提供してきた。働く意欲があり、特性や仕事内容が合えば採用につなげることも多いという。

生徒たちを受け入れることで従業員も障害の特性を理解でき、それぞれに適した仕事を割り当てやすくなった。最近では、コミュニケーションにホワイトボードを活用するといった小さな配慮の意識も高まっている。

ある人には、1から順に数字を記したボードを用意。作業中の部品をその上に並べることで数え間違いが減った。このほか、部品のリ

「調子いい」「ふつう」「おなかいたい」などと記したカードを張ることで、対人関係が苦手な従業員も上司や同僚に無理なく伝えられるようになった。

知恵絞って後押し
障害者雇用で50年以上取組むオムロン太陽（別府市内蔵）は、従業員73人のうち34人が障害者（7月29日時点。障害のあるなしに関わらず、働く人の能力を最大限に発揮できる職場環境を整えようと、各種のサポートツールを設けている。1人分の体調や精神状態を周囲と共有する「コンディションボード」もその一つ。朝礼時、ホワイトボードに

「双方の努力必要」
本年度は法定雇用率の引き上げと併せ、雇用義務のある事業所の範囲も広がった。大分労働局によると、県内は昨年度の901社から、新たに100社以上が対象になった。

同局職業対策課は「障害者雇用がゼロの企業を減らしたい」とし、面接などで企業と当事者をつなぐ機会を増やす考えだ。

ただ、雇用には障害者個々の特性に対する十分な理解が不可欠。県身体障害者福祉協会の佐藤いづみ事務局長（68）は「義務だからといってやみくもに雇つとミスマッチが起る恐れもある」と指摘する。職場に定着して力を発揮できるかどうかは「当事者が希望をきちんと伝え、企業は適性を見極めた配置をするなど、双方の努力が必要」と話した。

ストと保管棚を共通のバーコードで管理し、取り違えがなければ音と振動で知らせるシステムも導入した。社調（部長）は「雇用するだけでなく、徐々にできる業務の幅を広げ、将来的には各部門のリーダー的な存在が育つてほしい。知恵を絞ってほしい。職場をつくってほしい」。会社をみてキャリアアップを後押しする。



〔問①〕 民間企業が雇用すべき障害者の割合「法定雇用率」は何%ですか。
対象となる事業所の従業員数は？

〔問②〕 トキハインダストリーが取り組んでいる「小さな配慮」は？

〔問③〕 障害者が働きやすい職場にするため、できることを考えよう。